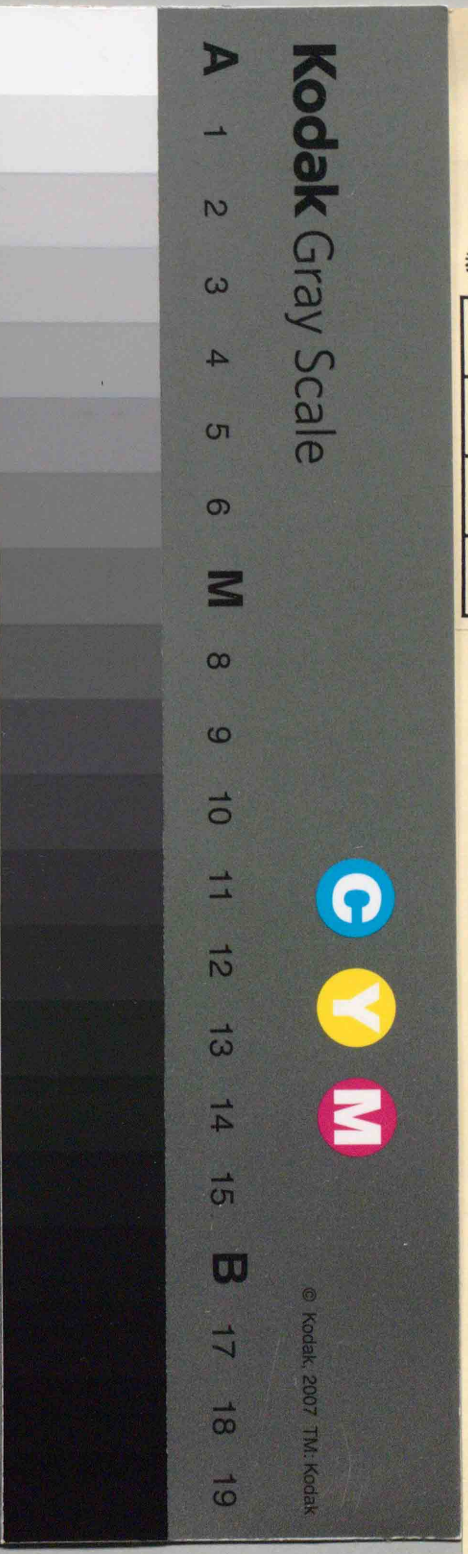
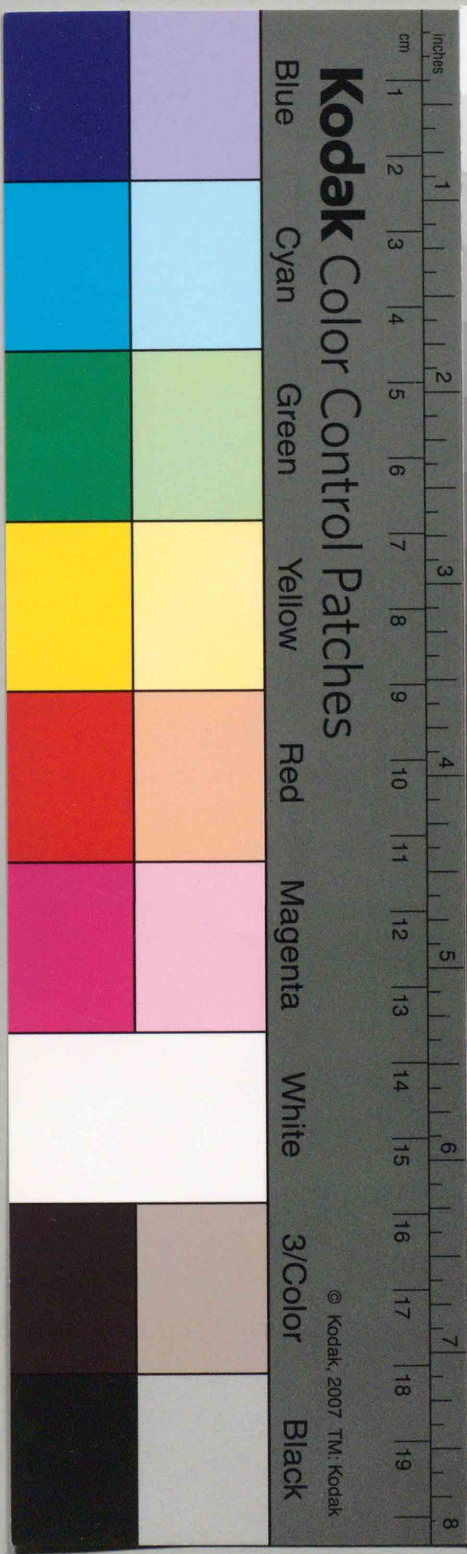




教科書文庫
4
760
52-1902
0130449460

女學唱歌



30483
教科書文庫

子4
760
52-1902
01304 49460



教科書文庫
4
760
52-1902
0130449460

中央図書館

広島大学図書
0130449460


明治三十三年三月十日
文部省檢定濟

女學唱歌

山田源一郎編

(第一集)

合資
會社
共益商社
樂器店藏版

広島大学図書

0130449460



序

音樂を普通教育の一要素と認め唱歌を學校の課程に加へられしはつひ近き頃の事と思ひしにはや二十餘りの星霜を経ぬ其間幾多の變遷なきにあらざりしが特に當時女學生の唱歌には古調の律旋もてものせる歌曲多かりけるをいつしか新調の歌風に移れるはいといちじるき現象にあらずとやいはんこはもと時勢の然らしむる所とはいへ斯道の爲に盡されたる人々の力によれること多きは云ふまでもなかるべし此度山田君のものせられたる唱歌集はことさらに西洋諸名家の作曲のみを集めまゝ君が作曲をも交へられたりと聞く斯くてこそ教育の理法を唱歌に應用し易より難に入り簡より繁に進むの順序を誤らず將來一般女學生の音樂の趣味をも一

變して優秀の氣品を養成するを得ん山田君は最も早く
 新音樂の門に入りたる人にして久しく東京音樂學校に
 また女子高等師範學校に樂鞭を執れる人なれば其選曲
 の能く當を得て音樂教育に裨益を與へんこと余の信じ
 て疑はざる所なり

明治三十三年七月二十八日 洒勾郵絃海書屋にて

伊澤修 一一しるす

緒言

一本書ハ專ラ女子師範學校高等女學校其他之
 ト同一程度ノ女學校教科用トシテ適當ナル
 材料ヲ供給スル目的ヲ以テ編纂シタルモノ
 ナリ
 一本書中ノ歌詞ハ總テ本邦名家ノ手ニ成リ其
 樂譜ハ編者ノ作ヲ除クノ外悉ク泰西名家ノ
 作ニ係ルモノ若クハ國風曲等ニシテ歌想樂
 想共ニ主トシテ本邦女子ノ性情ニ恰好ナル
 モノヲ選擇セリ

一本書中ノ歌曲ハ之ヲ單音複音及三重音ノ三種ニ類別シ各種ニ就キ畧ボ難易ノ順序ニ依リテ配當セリ但シ實際教授上ノ便宜ニ依リ多少ノ異動ヲ行フハ教授者ノ任意ナリトス

明治三十三年八月

編者誌

女學唱歌第一集

目次

- 一 忍ぶのころも
- 一 鶯告春
- 一 歡迎の歌
- 一 雪
- 一 つみくさ
- 一 愛國
- 一 園生の春
- 一 四季の詠
- 一 小鳥
- 一 卒業式の歌

- 一 落花
- 一 川のながれ
- 一 つれづれ
- 一 富貴の花
- 一 女のかゝみ
- 一 たのしみ我屋
- 一 夏の曙
- 一 潮干狩
- 一 隅田川
- 一 紅葉狩

忍ぶのころも

○忍ぶのころも

一 シ ノ ア ノ コ ロ モ チ ソ ノ ミ ニ マ ト ヘ
 二 し の ぶ の な ぐ さ を こ こ ろ に う る よ

ニ シ キ ニ マ サ ル ハ シ ノ ア ノ コ ロ モ
 は な に も ま さ る は し の ぶ の な ぐ さ

○忍ぶのころも

三輪義方
 山田源一
 郎作曲

一、しのぶのころもを、

その身にまとへ。

錦にまさるは、

しのぶのころも。

二、忍ぶのをぐさを、

こゝろにうるよ。

花にもまさるは、

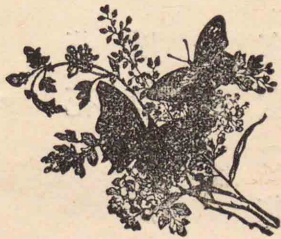
忍ぶの小艸

○目次

附

- 一 新年
 一 祝歌
 一 櫻狩
 一 たそがれ
 一 懷友
 一 集會
 一 旅の暮
 一 秋の漁
 一 琴の音
 一 秋の夜
 一 輪唱
 一 寫眞

- 一 花紅葉
 一 兄弟
 一 夜學
 一 四季のあはれ
 以上



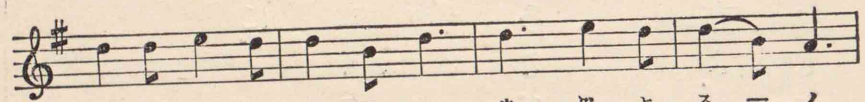
鶯 告 春



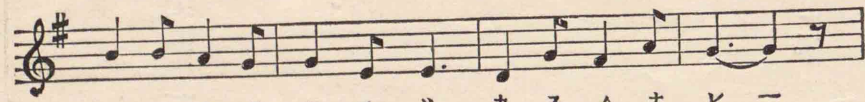
一、ノザハノコホリトケソメテ一
二、いつしかゆきもきえはてて一



ウラソカクサヤモエヌラ一
のきばのうめぞかをるなる一



ハルクトツケルウケヒス一ノ
なくうぐひすのこゑより一ヤ



コエノスエコソカス△ナレ一
のやまもはるやしりぬらん一

○鶯告春

一、野澤の氷とけそめて。

うら若草やもぬらん。

春來と告る、うぐひすの。

こゑの末こそ、かすむなれ。

二、いつしか雪も消えはて。

軒端の梅ぞ、かをるなる。

なくうぐひすの、聲よりや。

野山も春や、知りぬらん。

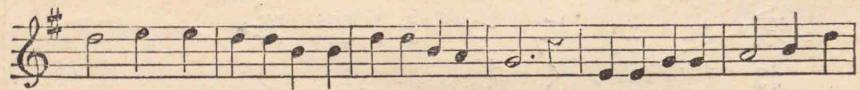
歓迎の歌



キケヨ モリノチチコチニ サヘヅルコトヲノ



ナリコエチ ウレシキシーラベタノシキネ



トモチムカヘテヨロコビノ ココロヤソトニ



アフルラム キタレヤキタレイザトモヨ



ワレモウダハムモロトモ一ニ

○歓迎の歌

聞けよ森の、をちここに。

さへづる、小鳥の、なくこゑを。

嬉しきしらべ、楽しき音。

友をむかへて、よろこびの。

心や外に、あふるらむ。

來れや來れ、いざ友よ。

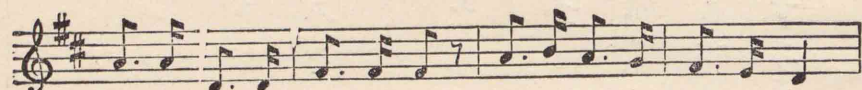
われもうたはむ、もろともに。

山田源一郎作曲

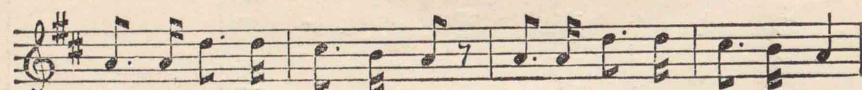
雪



一、イタヤノノキニフリクルオトハ
二、なごさのうへにくだくるたまは



シグレカユキカコノハカアメカ
あられかゆきかはるさくはなか



キエズニトマレカキネノマツニ
とけすにのこれかれふのしばに



ロガマツウメノ一ツボミノゴトク
がてふのはれのいちりくるごとく

○雪

一、板屋の軒に降りくる音は。

時雨か雪か木の葉か雨か。

消えずにとまれ、榎根の松に。

わが待つ梅のつぼみの如く。

二、小笹のうへにくだくる玉は。

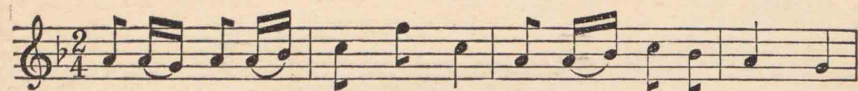
霰か雪か春さく花か。

解けずに残れ、枯生の芝に、

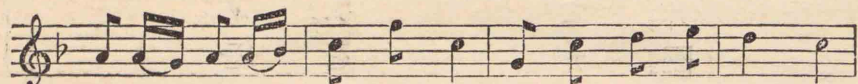
鵜鳥の羽ねの散りくる如く。

大和田建樹作歌

つみくさ



一、ノヤーマチーホホフサクーラノクモ
二、うちつれかへるはるののはら



ミソーラニヒビクヒバリノウタ
しやうかばだしかいものこゑ



ツミークサーイソーゲチートメノトモ
かごなるはなのそこのなはなに



タンポーボヨメーナヨモギーニセリ
すみれになづななたれにれんげ

〇つみくさ

一、野山をおほふ櫻の雲

みそらにひやく雲雀のうた

つみくさいそげ少女の友

たんぼぼ嫁菜よもぎに芹

二、うちつれかへる春野の原

唱歌はたしか妹の聲

籠なる花の其名はなに

すみれになづな菜たねにれんげ

大和田建樹作歌

愛 國

一、ナ マ ト ゴ コー ロ ナ イ ヤ フ リ ナー コ シ
二、か み よ な が ー ら の わ が ひ の も ー と は

チ ト コ ナ ミー ナ モ ミ ナ モ ロ ト ー モ ニ
と つ く に び ー と も か し こ み あ ー ふ ぐ

ミ ク ニ ナ マ モ レ イ ノ チ ニ カ ケ テ
ま も れ よ ま も れ い の ち に か け て

ミ ク ニ ナ マ モ レ イ ノ チ ニ カ ケ テ
ま も れ よ ま も れ い の ち に か け て

○愛 國

一、大和心を、いやふりおこし。

男をみなも、みなもろともに。

皇國を守れ、命にかけて。

二、神代ながらの、我日の本は。

外國人も、かしこみあふぐ。

守れよまもれ、命にかけて。

園生の春

ハルカセフーキー キテミツ ラモカーズー ラ

ウカ ヒスキーナー キテサク ラモサーキー ラ

イザ トモキーター レヤソノ フチメーグー ラム

トイ サヘハーナー サヘ ウキ タツモーノー ナ

○園生の春

○園生の春

春かぜ吹き来て、みそらも霞み。

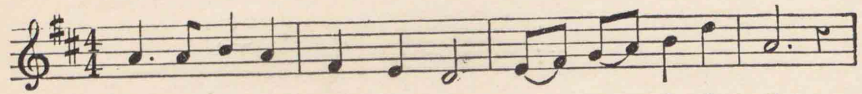
うぐひす來鳴きて、さくらも咲きぬ。

いざともきたれや、園生をめぐらむ。

鳥さへ花さへ、うきたつものを。

武島又次郎作歌
アルン作曲

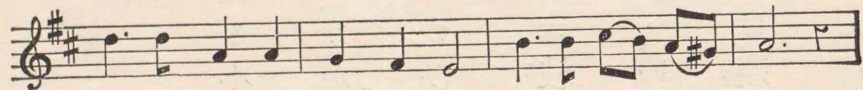
四季の詠



一、カ ス ミ ニ ト ナ シ シー パー ノ ト ニ
 二、さ み だ れ は れ し ゆー ふー ま ぐ れ
 三、キ ク ノ サ カ ヲ ニ ナー リー ヌ レ バ け
 四、ゆ き よ り し ら む あー さー ぼ ら け



ヒ ト ク ト ツ ナ ル ウー グー ロ ス ハ
 つ き や い か に と なー がー む れ ば
 ヲ ガ ソ ナ サ ヘ モ ニー ホー フ ナ リ
 と や ま の い ほ に たー つー け ぶ リ



ハ カ ル ト シ レ ド ハ カ ラー レー テ
 の き の あ や め に た ま なー せー る
 オ ホ シ タ テ テ シ ア サ ヨー ヒー ノ
 こ る も で う す き し づ のー なー が



ウ レ シ キ ハ ル ト ソ ウー ター ヒ ケ ル
 な り の つ ゆ も かー をー る な リ
 ツ ギ リ の つ ゆ も かー をー る な リ
 よ ヌ ヲ ノ メ ガ ミ ズー シー ラー レ ケ
 わ た る わ ざ こ そ あー はー れ な

○四季の詠

山田源一 郎作曲

一、霞にとちし、柴の戸に。人來と告ぐる、うぐみすは。
 はかるとしれど、はかられて。嬉しき春とぞ、うたひける。
 二、さみだれ晴れし、夕間ぐれ。月やいかにと、ながむれば。
 軒のあやめに、玉なせる。なごりの露も、かをるなり。
 三、菊の盛になりぬれば。我袖さへも、匂ふなり。
 おほしたて、し、朝宵の。つゆのめぐみぞ、知られける。
 四、雪よりしらむ、朝ぼらけ。外山のいほに、たつけぶり。
 衣手うすき、しづの男が。世わたる業こそ、あはれなれ。

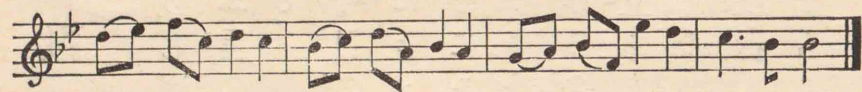
小 鳥



一、ソノフノシバ—フニアサレルコトヲ
二、あれあれやな—ぎにまたまつがえに



ノドケキヒカゲ—ニウカレ—ヤスラン
おはれつおひつ—ついとむ—つましく



ア—レ—アレターガ—ヒニト—モ—ヨビカハス
と—リ—すらと—も—とはし—た—しむものを

○小鳥

一、園生の芝生に、あされる小鳥

中村秋香作歌

のとけき日影に、うかれやすらん。

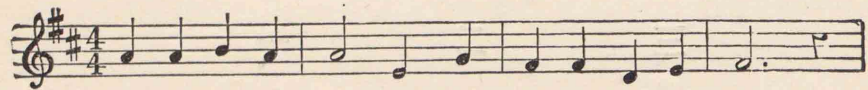
あれくたがひに、友呼びかはす。

二、あれく柳に、また松が枝に。

おはれつおひつ、いとむつましく。

鳥すら友とは、親しむものを。」

卒業式の歌



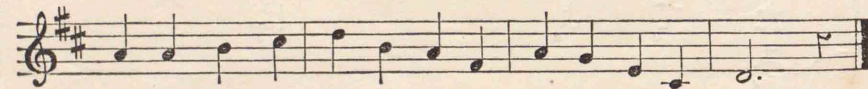
一、 ア シ タ ニ ヲ ク ル ミ チ シ バ モ
 二、 は 一 な の さ か リ も よ そ に き き
 三、 チ シ ヘ ノ ツ ノ ニ オ ヒ タ チ シ



ユ フ ベ ニ ハ ラ フ コ ト ノ ハ モ
 つ ー き の ま と め に そ む き つ つ
 ヲ カ キ ノ ヲ メ ノ ケ フ ヨ リ ハ



ユ キ ト ホ タ ル ノ ヒ カ リ ニ テ
 つ と め い そ し む は る あ き の
 キ ヨ キ ミ サ ナ ノ イ ク ハ ル モ



カ ガ ヤ ク ケ フ ー ノ ム シ ロ カ ナ
 つ き ひ は ふ ー み の ひ か り が な
 ヨ ー モ ニ カ ナ ラ ム ハ ナ ノ カ ハ

○卒業式の歌

山田源一郎作曲

一、 朝にわくる、みちしほも。
 夕にはらふ、言の葉も。
 雪と螢の光にて。

二、 花の盛も、よそにきよ。
 月のまとるに、そむきつよ。
 つとめいそしむ、春秋の。

三、 教の園に、生ひ立ちし。
 月日はふみの、光かな。
 清きみさをの、幾春も。
 四方にかをらん、花の香は。

落花



一、ヒ ラヒ ラ チ リ ク ル ハ ナ ノ サ マ ハ
 二、み る み る し ば ふ に ゆ き は み ち め
 三、イ ザ イ ザ ヒ ロ ヒ テ カ ゴ ニ イ レ テ



ユ フ ベ ノ ア ラ レ カ ア サ ノ ユ キ カ
 キ の フ の 盛 も 今日 は 夢 よ
 ト の モ ニ モ オ ク ラ ャ ン ハ ル ノ カ ム

○落花

大和田建樹作歌

一、ひらくちりくる花のさまは。

ゆふへの霰か朝の雪か。

二、みるく芝生に、雪はみちぬ。

きのふの盛も、今日は夢よ。

三、いざくひろひて、籠に入れて。

友にもおくらん、春のかたみ。

川のながれ

一、ア— シアミト ドロニチドリユーターハ
二、わ— がゆくま なびのみちもこーれーぞ

コ— ヨロモタノシキミ ヅノターピーダ
キ— のふのふもとほけふのたーかーね

コ ノハニ—ム—セピシコ エハキ—ノーフ
か づらに—す—がりつ い しにま—ぢ—つ

ケ— フコソ—ユ—タケキカ ハニウ—ミーユ
つ— ひには—や—へだつく ものう—へ—に

○川のながれ

○川のながれ

大和田建樹作歌

一、 足ふみとろに、躍りゆくは。
心もたのしき、水の旅路。
木の葉に咽びし、聲は昨日。
今日こそゆたけき、河に海に。

二、 わがゆく學の道もこれぞ。
きのふの麓は、今日の高嶺。
かづらにすがりつ、石によちつ。
つひには八重だつ、雲の上に。

つれづれ



一 オ モ ハ ヌ カ タ ニ モ ユ カ シ キ モ ノ
 二 こ ころ に な く と も わ び し き も の



ハ ル ノ ツ レ ツ レ ミ ニ フ ト イ ル
 あ き の つ れ づ れ こ す ら ゆ ふ づ く



ヨ ソ ノ コ ト ノ ネ
 て ら の か れ の れ

つれづれ

旗野十一郎作歌
 ボーマン作曲

一、思はぬかたにも、懐しきもの。

はるのつれづれ。

みゝにふといる、他家の琴の音。

二、意になくとも、わびしきもの。

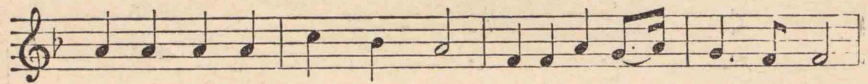
あきの徒然。

こずゑゆふづく、寺の鐘の音。

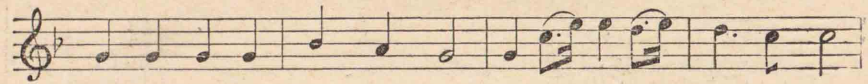
富貴の花



一、ア テ ナ ル サ マ ヤ ソ ノ フ ノ ホ タ ン
 二、す す し き い ろ ヤ み ぎ は の は ち す
 三、カ ク レ ガ フ カ ク チ ト セ ノ ア キ チ



フ ウ キ ノ ハ ナ ト ウ ベ コ ソ ー イ ヘ レ
 か な り も き よ し つ ゆ き へ き よ し
 シ ヅ カ ニ オ ク ル シ ラ ギ ク ー ア ハ レ



ニ ホ ヘ ル イ ロ ハ ニ シ ー キ チ ー ヲ ソ ロ
 な つ な ほ ふ れ る ゆ き ー か と ー ま が ひ
 ユ フ ベ ノ キ リ ニ ヒ カ ー リ チ ー ツ ツ ミ



カ カ レ ル ツ ユ ハ ー タ マ チ ソ ー カ ザ ル
 ひ る さ へ つ き の ー お も が げ ー う か ぶ
 ア シ タ ノ カ セ ニ ー カ チ リ チ ー モ ラ ス

○富貴の花

三輪義方作歌

一、あてなるさまや園生のぼたん。
 ふうきの花と、うべこそいへれ。
 句へるいろは錦をよそひ。
 かゝれる露は玉をぞかざる。

二、すゞしきいろやみぎはのちす。
 かをりもきよし露さへきよし。
 夏なほふれる雪かとまがひ。
 ひるさへ月のおもかげうかぶ。

三、かくれがふかく千年の秋を。
 しづかにおくる白菊あはれ。
 ゆふべの霧に光をつゝみ。
 あしたの風にかをりをもらす。

女のかがみ



オーモヘバユ カシキチー シヘノタネ



ターガシキチ ミナノカーガミトモシ



チー トセノノチマテムー ラサキニ
オー トナフクヒナニネー ヤノトユ



ホヘルコー トバノイ ロ
ルサメコー コロノフ シ

○女のかがみ(紫式部)

○女のかがみ(紫式部)

三輪義方作歌

おもへばゆかしきをしへのたね。

たゞしきをみなのかがみとみん。

千年の後まで、むらさき匂へる、言葉のいろ。

おとなふくひなに、閨の戸ゆるさぬ、ころのふし。

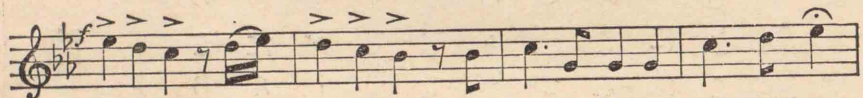
たのし我屋



一、タ キギセーホーロクルター ニノホーソーミーナ
二、み ちのさーわーらびはあーすにのーこーしーて



ア ラシミーニシミテユー フヒカーグーレヌ
な れしたーにーがはのはーしをわーたーれば



タノシ ヲーガヤハ コノマニミエタリ
うれし わーがやは ちかくにきたれり



キノイトー ヤナギカー セニナービ キテ
に はのはーなーいばらかーぜにかーをりて

○たのし我屋

大和田建樹作歌

一、薪たきせおひくる、谷たにの細ほそ道みち

嵐あらし身みにしみて、夕ゆふ日ひかくれぬ。

たのし我わが屋やは、木この間まに見みえたり。

軒のきの糸いと柳やなぎかぜになびきて。

二、道みちの早さわ蕨わづらひは、あすに残のこして。

なれし谷たに川がはの橋はしをわたれば。

うれし我わが屋やは、近ちかくに來きたれり。

庭にわの花はないばら、風かぜにかをりて。

夏の曙



一、ツキハ ソラニノコリ テ シラミヲタ
 二、よはの ほたる みつよ つ ともしのこる



ヤマノ ハ クモノイロモ スズシク
 すすし さ たがき もりの うへに は



マツノ カズモ ミエタリ ミヨヤノベノ
 せみの こゑも きこえぬ おきてふめや



ナデシコ ツユニヌルル エガ 花
 あさつゆ こころよきは このとき

○夏の曙

一、月つきはそらにのこりて、

雲くものいろもすゞしく、

松まつのかずも見えたり。

二、夜半よなかのほたる三みつ四よつ、

高たかき森もりのうへには、

おきてふめや朝露あさつゆ

こゝちよきは此時このとき

大和田建樹作曲

潮 干 狩

Allegretto.



一、フ キ ク ルー カー セ ニ ハ シ ホー ケー カー ナー リ
二、は な り のー かー み に は ひ かー げー にー ほー ひ



ハ ル ケ キー ウー ミ ニ ハ ミ ドー リー シ キ テ
こ そ め のー たー す き に し ろー きー か ひ な



ヒ カ タ モ ヒ トー ノ ハ ナ サ ヘ サー ク
つ つ み し う たー も け ふ に は はー れ



カ タ マ コ チ ケ ヨ ト テ デ ニ サ ゲ ツ ツ
き み よ わ ら は よ と と も に さ ざ め き



ラ ヌ モ シ ル モ ヨ バ レ ツ ヨ ビー ツ
は ま ぐ り あ さ り と り ど り あ そー び



エ ミ ゴ エ タ カ ク ウ チ △ レ ユ ク
こ し か ひ あ り と み な よ ろ こ ぶ

○潮干狩

二 一
来^レ 蛤^{はまぐり} 君^{きみ} 慎^{つと} 緋^ひ 放^{はな} 笑^{わら} し 籠^{かご} 干^ひ 遙^{はるか} 吹^ふ
し よ 秘^ひ 染^{ぞめ} 下^{した} 笑^{わら} ら 小^こ 湯^{かた} け き 吹^ふ
か わ し の た の 聲^{こゑ} め 小^こ 湯^{かた} け き 吹^ふ
ひ 文^{ぶん} ら 唱^{うた} の 髪^{かみ} 高^{たか} 知^し り 人^{ひと} 海^{うみ} 風^{かぜ}
あ は よ 歌^{うた} た す き に は く も と の は は
と 具^ぐ と も に は く も と の は は

み と と け し 日^ひ う よ 手^て 花^{はな} 緑^{ろく} 潮^{しほ}
な り も ふ ろ 影^{かげ} あ ば 々^々 さ し 旗^{はた} 野^の 十^{じゅう} 一^{いち} 郎^{らう} 作^{さく} 歌^か
よ く に は き か ひ ほ 行^い く つ 提^た げ つ 咲^さ き を 風^{かぜ} を 吹^ふ け たり
ろ あ 喧^{けん} は 公^{こう} ひ な 行^い く つ 提^た げ つ 咲^さ き を 吹^ふ け たり
こ そ 騒^{さわ} き 然^{ぜん} な 行^い く つ 提^た げ つ 咲^さ き を 吹^ふ け たり
ぶ び 騒^{さわ} き 然^{ぜん} な 行^い く つ 提^た げ つ 咲^さ き を 吹^ふ け たり

旗野十一郎作曲

隅田川



一、ツ ツミノーヤー ナギニヨ ノイローノー コシテ
二、ま たゆふーすー ずみにつ きみにーむー しきき



ハー ナヨリーアー ケユクア ケボノーノー ケシキ
いー づれのーとー きにかお ひかしーかー らざる



ミ キハノーアー シーマーニフ ネーノリーノー ナチテ
い ざこのーあー たーリーにい ほーリーなーむー すびて



ユ キーフーミーワターユークユ フグレノー ナガメ
わ がーよーじーかーぎーリーなす みだのーかー ほぎし

○隅田川

○隅田川

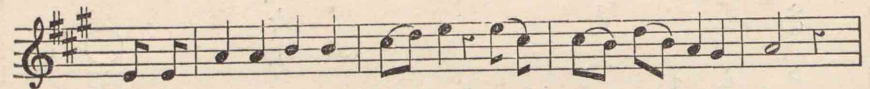
わが世の限りを、	いざこのあたりに、	いつれの時にか、	また夕すゝみに、	雪ふみ分けゆく、	汀のあしまに、	花より明けゆく、	堤の柳に、
すみだの川岸	庵を結びて。	おむかしからざる。	月見にむしきゝ。	ゆふぐれのながめ。	船のりはなちて。	あけぼのゝけしき。	夜の色残して。

中村秋香作歌

新 年



二 トシ タツ アシ ターノ フク カーゼーキヨ ミ
二 わが おほ みく にーの かし こーきーみい つ



ハレ ニ ハレ タ リーヤ ヤーヘーノーサギ リ
か が や き わ た れーる あさ ひーのーみは た



ミロ タス カギ リーハ ソラ スキ ミカゼ リ
と し た つ あ し たーの の ど し き か ぜ に



ヨモ ニ カ ガ ヤ クーヤ アサ ヒーノーミハ タ
う ち と の た み くーさ な び きーやーす ら む



ミカ グサ シ タ ヒーテ ヨリ クル クニ グーニ
そ ら に は よ び かーふ あ し た づ のーこーる



アハレ アナーメーテ タ ア ハレ ターノ シ
の ベ に は たーなーび く か す みーの そ で



ミヨ モサカユ ルーヤ クニ モサカユ ルーヤ
あ は れ め で た しーや あ は れ お も し ろーや

○新 年

一、 年 立 つ 朝 の、
は れ に は れ た り や、
見 渡 す か ぎ り は、
四 方 に か ぐ や く や、
み か げ を し た ひ て、
あ は れ あ な め で た、
御 代 も 榮 ゆ る や、
我 大 御 國 の、
か ぐ や き わ た れ る、
年 立 あ し た の、
内 外 の 民 草、
空 に は よ び か ふ、
野 邊 に は た な び く、
あ は れ め で た し や、

二、 吹 風 き よ み、
八 重 の さ ぎ り、
空 す み わ た り、
あ さ ひ の み は た、
よ り く る 國 々、
あ は れ た の し、
國 も さ か ゆ る や、
朝 日 の 御 旗、
の ど け き か ぜ に、
な び き や す ら む、
あ し た づ の こ る、
か す み の 袖、
あ は れ 面 白 や、

櫻 狩

Moderato.

二、みーれのきーかーげノドーかーなーり
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

ハニのきーヨーリウーラーラーナーリ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

ハニのきーマベマッーリナ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

ハニのきーマベマッーリナ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

イデーヤコマニクラーオーケーヨ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

イザーヤユカムサクラガハ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

ワガココロイサムナリノドカナリヤハルビ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

ノリゴマモイサムナリウララナリヤハルビ
 たーにのきーくーらきーきーにーけーり

○櫻 狩

一、
 春の日は影長閑なり。
 春の山邊交りなむ。
 春の日和融々なり。
 山の櫻咲きぬらむ。

二、
 峯の櫻咲きにけり。
 谷の櫻咲きにけり。
 花に迷ふ春の日や。

我が心勇むなり。
 率や行かむ櫻狩。

我が心勇むなり。
 長閑なりや春日。

乗駒も勇むなり。
 融々なりや春日。

乗駒も勇むなり。
 融々なりや春日。

鳥居 忱作歌

たそがれ



一、 コ ガ ネ ノ ナ ミ カ ト ナ ガ メ シ ク モ ハ
 二、 は る か に き こ ゆ る の で ら の か れ に
 三、 ナ ニ ス ト シ モ ナ ク △ ナ シ ク タ レ ヌ



ミ ル ミ ル ハ カ ナ ク イ ロ ア セ ニ キ テ
 た ぐ ひ て は か な き わ ゆ ふ ベ の い る は
 ヲ ガ ヲ ヲ ツ ヒ ニ ハ カ カ リ ヤ ス ラ ン

○たそがれ

一、 黄金の波かとながめしくもは。

見るくはかなく色あせゆきて。』

二、 はるかに聞ゆる野寺の鐘に。

たぐひてよせ來ぬゆふべのいろは。』

三、 なにすとしもなくむなしく暮れぬ。

わがよもつひにはかゝりやすらん。』

中村秋香
 エーベル作曲

懐 友

Moderato.

一、コ ノ メ モ ハ ル ノ ハ ナ サ ク ニ ハ
 二、も み ぢ も あ き の つ き て る に は

ナ ガ メ ニ ヲ カ ア オ モ ヒ ハ ナ ニ
 な が め に う か ぶ お も ひ は な に

△ ツ ビ シ ト モ ト ウ タ ヌ ヨ ミ カ ハ シ
 め で に し ひ と と か た ら ひ な が ら

ア ロ ミ シ イ ロ ア ア コ ノ イ ロ
 あ ひ み し か げ あ あ こ の か げ

○ 懐 友

一、この芽もはるの、花さくには。
 眺にうかぶ、おもひはなに。
 むつびし友と、歌よみかはし。
 あひみし色あゝこのいろ。』

二、もみぢもあきの、月照る庭。
 ながめに浮ぶ、おもひはなに。
 愛にし人と、語合ひながら。
 あひみし影あゝこのかげ。』

旗野十一郎作曲

集 會

Allegretto.

一、ア ナ オ モ シ ロ ノ ケ フ ノ ▲ シー ロ
 二、む か し な し の び い ま を か た ー リ

mf

ア ナー コ コ ロ ユ ク コ ノー ロ ノ マ ト 井
 た が ー ひ に つ ゆ も こ こー ろ を お か ず

mf

ア ナー コ コ ロ ユ ク コ ノ マ ト ー 井
 た が ー ひ に つ ゆ も こ こ ろ お か ず

STES.

オ モ フ ト モー ド チ ソ デ カ イ ツ レー テ
 お も ふ こ と ー ど も い ひ か ほ し つー つ

○集 會

中 村 秋 香 作 曲
 グン ベ ル ト 作 曲

一、あなおもしろの、今日けふのむしろ。

あなこゝろゆく、このひのまとる。

おもふ友ともどち、袖そでかいつれて。」

二、昔むかしをしのび、いまをかたり。

たがひにつゆも、心こころをおかず。

思おもふことゝも、言いひかはしつゝ。」

旅の暮



ユ フ ベ ノ ソー ラ キー リ タ チ コー メ
ト ヲ タ ル カー リ コー エ モ サ ビー ヴ



コー ロ シ ナ ト シー ツー キ ナ レ ニ シー フー ルー サート



モー ノ ヲ キー ハ ロー ナ ノ ナ ガ サ

○旅の暮

ゆふへの空、きりたちこめ。

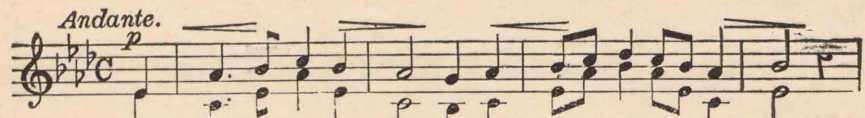
とわたるかり、聲もさびし。

戀しやとし月、なれにしふるさと。

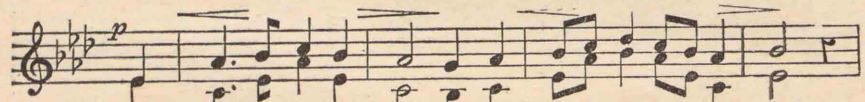
ものうきは、ひなのながち。

三輪義方作歌

秋 漁



一、イ リ ヒ ナ ミ ニ コ ガー ネ ノー コ ヲ
 二、い そ わ の を ぶ れ お きー に すー す み



ク ロ ミ シ ソ ラ ヘ カ ヘー ル ミー サ コ
 す な ど る あ ま の さ まー ぞ さー わ ぐ



ミー ヤ ハ ノ ア シー ニ ノー ホ ル カ ニー ノ
 かー た わ れ づ きー の ひー が し や まー に



イー マ アー リー フー ク シー ホ ド キ
 まー だ のー ぼー らー ん うー ち と ヤ

○秋 漁

旗野十一郎作歌

一、いり日はなみに黄金のこし。
 黯然そらへかへる鵬

みぎはの芦にのぼる蟹の。
 いま泡ふく満潮時

二、磯回のを船おきにすゝみ。

すなどる海人の状ぞ騒忙。
 片割月のひがし山に。
 まだ昇らぬ間とや。

琴の音



一、マ ッカセカ ヨ アーラシカア ハレアノーコ
 二、す すむしか まつーむしかと ほきあのーこ



エーハ ッキシロシカ セキヨシタ
 るーは つゆさむくよ もふけぬあ



カキコトノシ ラメイ ックヨリカヒビク
 やしふえのしらべが どのかたにひびく

○琴の音

一、松風か夜あらしかあはれあの聲は。

月しろし風きよし。

たかき琴のしらべ。

いづくよりかひびく。

二、鈴蟲か松むしかとほきあのこゑは。

露さむく夜もふけぬ。

あやし笛のしらべ。

門のかたにひびく。

大和田建樹作曲
 メンデルソーン

秋の夜

一、アキカゼサムクナリユクニクマレニバ
 二、ともしびかかげつくるにまれ

ヨルキコソコトラニセイトナカシケレな
 ヲツキコソコトラニセイトナカシケレな

マニガキノモトニナクニシノコレエバ
 マニガキノモトニナクニシノコレエバ

ナニケハニサるノギツナニユヘニリ
 ナニケハニサるノギツナニユヘニリ

ヤニニドレチルのツホキトカリガに
 ヤニニドレチルのツホキトカリガに

ア ナアニハレアハニレ
 ア ナアニハレアハニレ

○秋の夜

一、秋風さむくなりゆくまゝに。

よるこそことに、いとをかしけれ。
 まがきのもとに、なくむしのこゑ。

千草の露に、やどれる月かげ。

あなあはれ、あはれ。』

二、燈火かゝげ、机によれば

月こそてらせ、よむ書の上を。

琴引きよせて、手にまさぐれば。

こほろぎなけり、琴柱のほとりに。

あなあはれ、あはれ。』

中村秋香作曲

附 録
輪 唱

中村秋香作歌

○寫 眞

- 一、 ゆかしきおもわ、 さやけきこわね。
たゞみるごとく、 聞くこゝちせり。
- 二、 わがふるさとは、 ちさとのかなた。
五百重の雲は、 たちへだつれど。
- 三、 今このかたに、 向へばやがて。
手を取りかはし、 あふこゝちしぬ。

- 四、 うれしのかたや、 このかたこそは。
あけくれさらぬ、 わが窓のとも。

○花 紅葉

- 一、 ゆきて見ばや、 さける、 山の、 櫻の花。
- 二、 いざや、 おもふとちよ、 時は、 たがひやすし。
サもろともに、 袖つれて、 いざや。
サあめ風に、 うつろはぬ、 ひまに。
- 三、 ゆきてめでん、 にほふ、 のへの、 もみぢの色。
サこれかれを、 いざなひて、 いざや。
- 四、 いざや、 おぼしたてよ、 時は、 人をまたず。

サつゆしもに、ちりそめぬ、ほどに。

○兄弟

- 一、わが父母が、身體を分かちし。
わが身はやがても、わがはらからの身。
- 二、わがはらからも、又ちゝはゝより。
身體を分かちて、生れし身なれば。
- 三、さてこそわれは、やがてもはらから。
はらからやがても、ちゝはゝなりけれ。
- 四、たふときものは、はらからなるかな。
したしきものこそ、はらからなりけれ。

○夜學

- 一、軒のきばの柳やなぎに、月つきかたぶきて。
書かきよむともしび、影かげまたたけり。
- 二、しづまりはてにし、ちまたのかなた。
はるかにきこゆる、遠吠とほきえのこゑ。
- 三、今宵こんせうもいつしか、一時いちじをすぎぬ。
この一ひとまさだに、まだよみはてゝ。

○四季のあはれ

- 一、花はなさく、春はるのやま。
梢すえより、ほのく、しらめる、あけぼの。

寫 眞

1.

一.ユ カ シ キ ガ モ ヲー サ ヤ ケ キ コ ヲー ネー
 二.わ が ふ る さ と はー ち さ と の か なー たー
 三.イ マ コ ノ カ タ ニー ム カ ヘ パ ヤ ガー テー
 四.う れ し の か た やー こ の か た こ そー はー

2.

タ グ ミ ル ゴ ト ク キ ク コ コ チ セ リー
 二.い ほ へ の く も は た ち へ コ だ つ せ どー
 三.テ ナ ト リ カ カ ハ シ ア フ コ コ チ シ ノー
 四.あ け く れ さ ら め わ が ま ど の と もー

鳴たつ、秋の澤

芦間より、やうく、くれゆく夕ぐれ。

ああ、なにとか、ああ、うたはん。

ああ、なにとか、うたはん。

ふみよむ、なつのつき。

をすの外に、そよく、ふさくる朝風。

筆とる、冬のまど。

笹の葉に、さらく、ふりくるはつゆき。

ああ、いかにか、ああ、いふべき。

ああ、いかにか、いふべき。

兄 弟

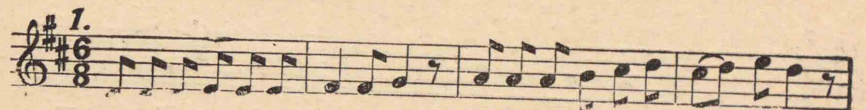


一. ヲガチチ ハーハーガム クロチヲ カーチーシヲ
 二. わがはら がーらーもま たちちば はーよーりむ
 三. サテコソ ヲーレーハヤ ガテモハ ラーカーラハ
 四. たふとき もーのーはは らからな るーがーなし



ガミハヤ カーテーモヲ ガハラカ ラーノーミ
 くるなわ がーちーてう まれしみ なーれーげ
 ラカラヤ ガーテーモチ チハハナ リーケーレ
 たしきも のーこーそは らからな リーけーれ

花 紅 葉



一. ユキテミバヤ サケル ヤマノサクラノーハナ
 二. いざやおもふ どりよ ときはたがひやーすし
 三. ユキテメデン ニホフ ノベノモミヤノーイロ
 四. いざやおぼし たてま ときはひとをまーたす



サ モ ロ トモニ リテツレテ イーザヤ
 さ あ め がぜに うつろはぬ ひーまに
 サ コ レ カレチ イザナヒテ イーザヤ
 さ つ ぐ しもに ちりそめぬ ほーどに

四季のあはれ



一. ハ ナ サ ク ハ ル ノ ヤ マ コ ズ - エ ヨ リ
二. ふ み よ む な つ の つ き な す - の と に



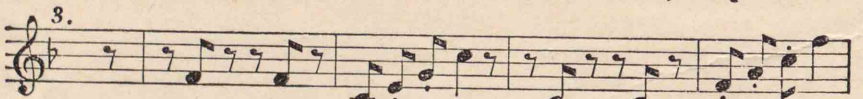
ホ ノ ホ ノ シ ラ - メ ル ア ケ - ホ ノ -
そ よ そ よ ふ き - く る あ さ - か ぜ -



レ ギ ヌ ツ ア キ ノ サ ハ ア シ - マ ヨ リ
ふ で と る ふ ゆ の ま ど さ さ - の は に



ヤ ウ ヤ ウ ク レ - ユ ク ユ フ - ケ レ -
さ ら さ ら ふ り - く る は つ - ゆ き -



ア ア ナ ニ ト カ ア ア ヲ ヌ ハ ン
あ あ い か に か あ あ い ふ べ き



ア ア ナ ニ ト カ ヲ ヌ ハ ン -
あ あ い か に か い ふ べ き -

夜 學



一. ノ キ バ ノ ヤ ナ ギ ニ ツ キ カ タ プ キ テ
二. し づ ま り は て に し ら ま た の か な た
三. コ ヨ ヒ モ イ ツ シ カ イ チ ヅ チ ス ギ ヌ



フ ニ ム ト モ シ - ビ カ - ゲ マ タ タ ケ リ
は る か に き こ ゆ - る と - ほ ほ え の こ 底
■ ノ ヒ ト マ キ ダ - ム マ - ダ ヨ ミ ハ テ ア

明治三十三年八月十五日發行
明治三十八年五月二十七日印刷
明治三十九年十月二十七日印刷

定價金五拾錢

編者 山田源一郎
東京市小石川區白山御殿町百十番地

發行者 白井直
東京市京橋區竹川町十三番地

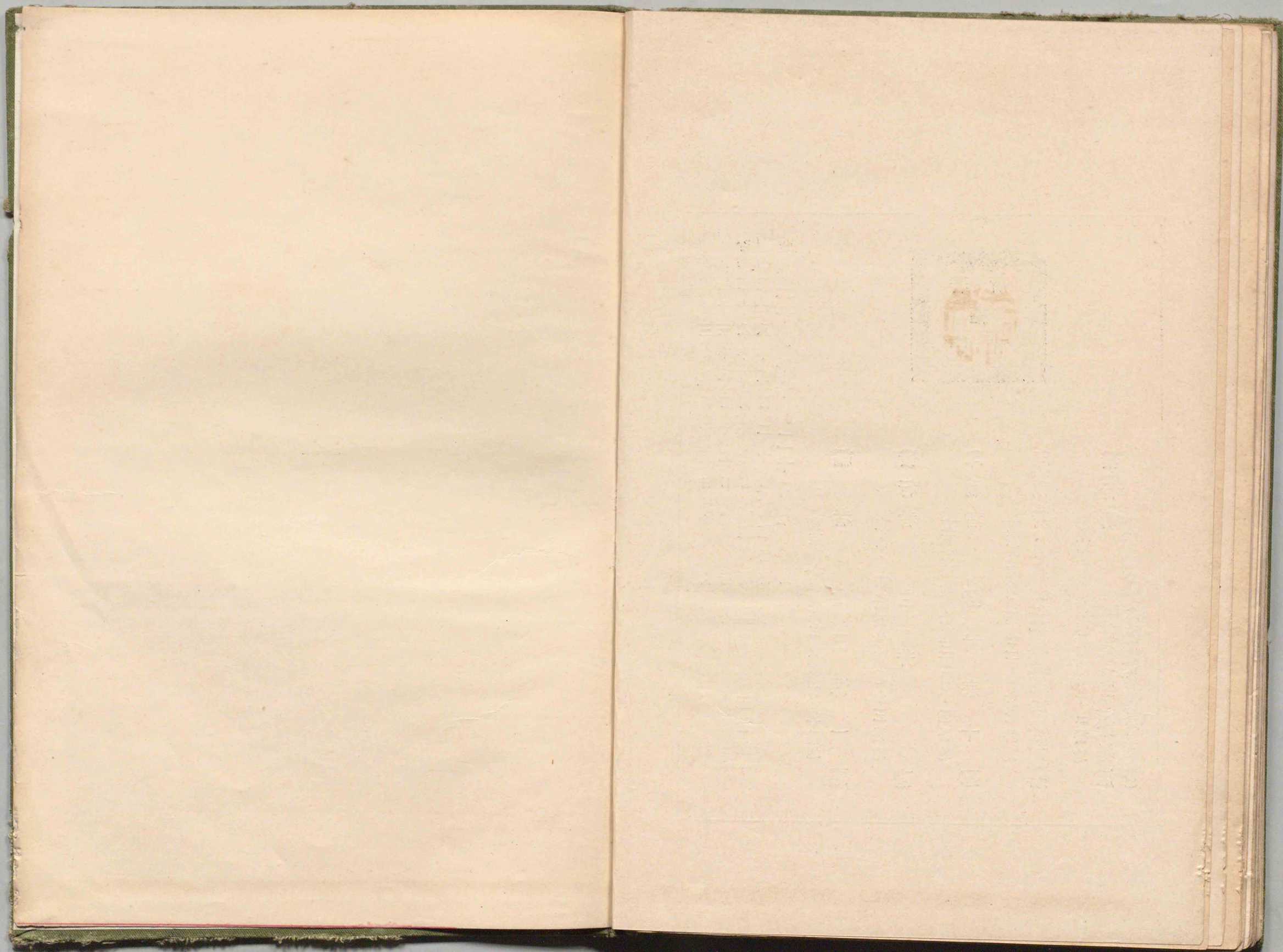
印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目十七番地

發行所 東京市京橋區竹川町十三番地
會社 共益商社樂器店
(電話番號新橋五百廿九番)



1980.1.2



晩 秋

米花園 樂人 作曲

Andantino.



1. ツ ユ シ モ シ ゲ ナ ル マ マ ニ
2. か き の こ の み の い る づ き て

mf



ヨ ソ ル ム シ ノ ネ カ レ チ バ ナ
さ へ づ る も づ の こ え さ む く

f



カ タ ム ク ツ キ ノ カ ゲ ヤ セ ラ テ
ゆ ふ ひ な ヲ め に ヤ ま て ら の

mf



ソ ー ロ ミ ニ シ ム ア キ ノ カ セ
か れ の れ さ び し あ き の く れ

一

露霜繁くなるまゝに、

弱る虫の音枯尾花、

傾く月の影瘦せて、

そいろ身にしむ秋の風、

二

柿の木の実の色附きて、

囀る百舌鳥の聲寒く、

夕日斜に山寺の、

鐘の音淋し秋の暮、

晩 秋

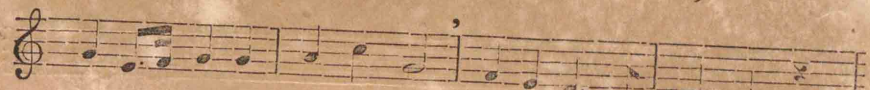
西山實和作歌

ハ調四分の四拍子



5 3. 4 5 5 | 6 i 5- | 4 3 2. 1 | 2- 5 0 |

モミサハヤマニシキカケリ
みそらははれてにかりわたり



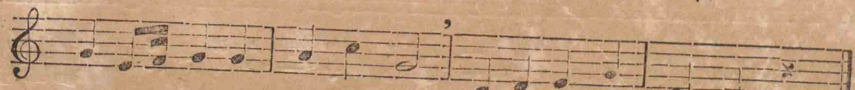
5 3. 4 5 5 | 6 i 5- | 4 3 2. 1 | 2- 1 0 |

チグサハノベニアヤチシテ
そのふはさびてきくにほふ



i. i 7 6 | 5 3 6 5 3 | 6. 7 i 7 6 | 5- 3 0 |

イトドサヤケキアキノロニ
いとどさやけきあきののろに



5 3. 4 5 5 | 6 i 5- | 1 2 3 5 | 2- 1 0 ||

ワガマナビヤノウシンドウクワイ
わがまなびやのうしんどうくわい

運動會

秋葉小雨作歌

(一)

紅葉は山に錦かけ

千草は野邊に綾をして

いとどさやけき秋の日に

我が學び屋の運動會

(二)

美空は晴れて雁わたり

園生は幽びて菊にほふ

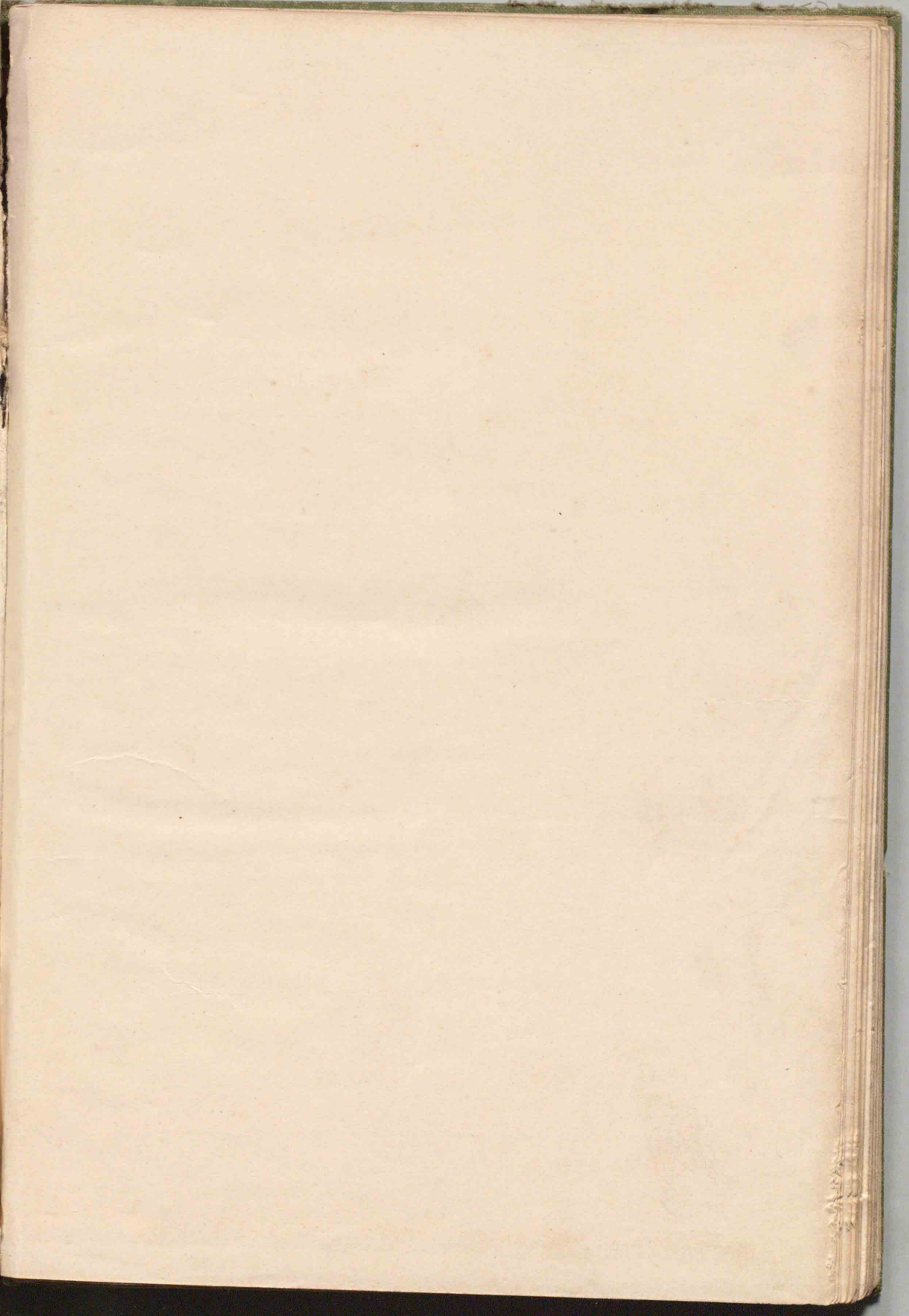
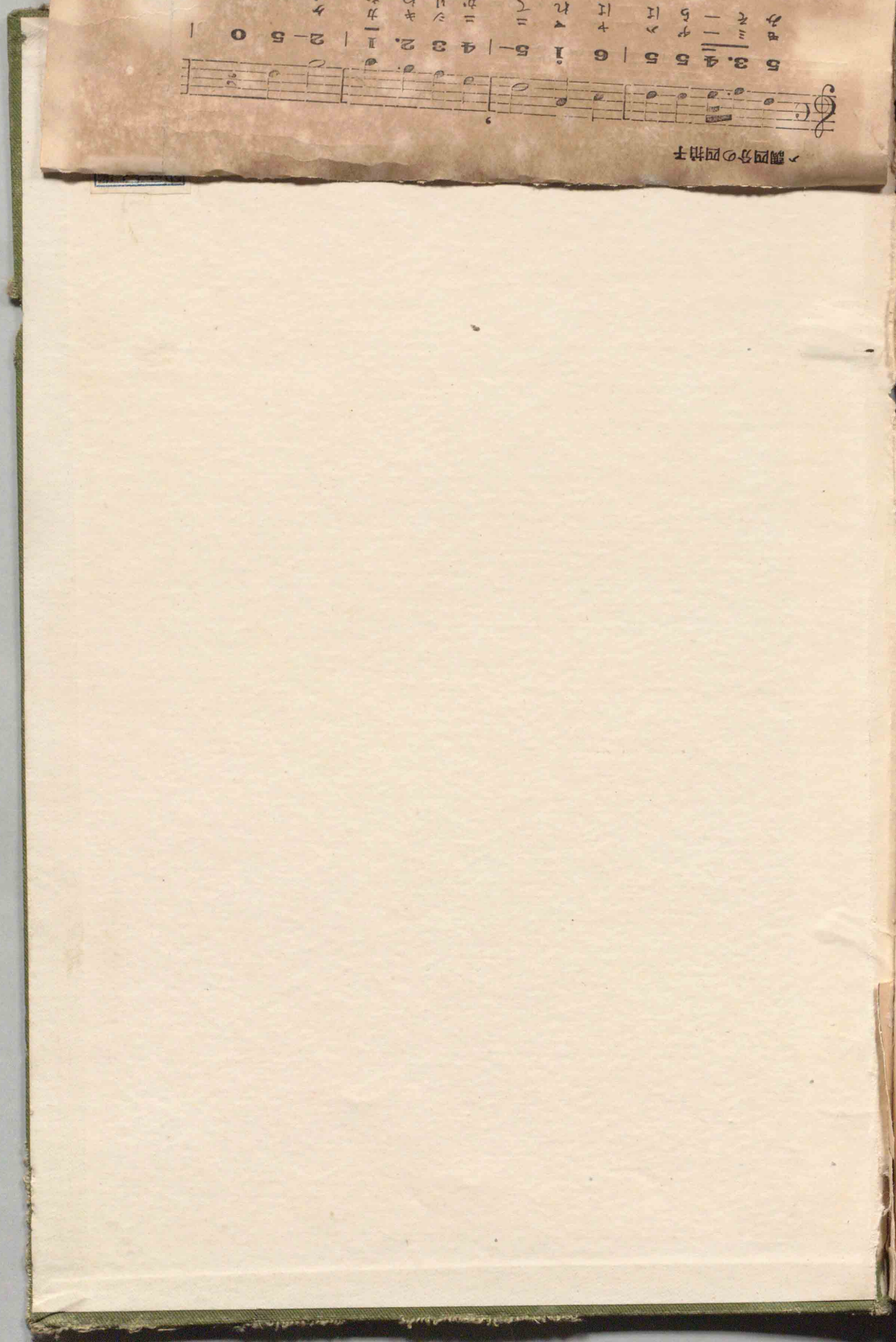
いとどさやけき秋の日に

我が學び屋の運動會

Handwritten musical notation on a piece of aged paper, featuring two staves with notes and a treble clef. The notation is written in a style characteristic of early Western music manuscripts.

Handwritten Japanese lyrics in hiragana, positioned between the two musical staves. The text is oriented vertically, reading from right to left.

♪ 四拍子の四分



広島大学図書

01 0130449460

